

モーリタニア月例報告
(2024年7月)

2024年8月
在モーリタニア日本国大使館

【大統領選挙】

7月 1日 CENI 委員長による第一回投票暫定結果発表
6月30日から7月1日 国際選挙監視団による予備声明の発表
7月 2日 暫定結果発表後の抗議デモ
7月 4日 憲法評議会による最終結果の発表

【ガズワニ大統領祝辞】

7月18日 岸田総理発ガズワニ大統領祝辞
7月 1日から6日 各国からのガズワニ大統領祝辞

【内政】

7月 3日 アベイド候補インタビュー（大統領選挙）
7月16日 メルズーグ外相へのインタビュー

【外政】

7月10日 第5回日本・アラブ経済フォーラムへの参加（その1）
7月11日 第5回日本・アラブ経済フォーラムへの参加（その2）
7月11日 モーリタニア・露関係（外交関係樹立60周年記念式典）
7月16日 第5回サヘル同盟総会
7月21日 モーリタニア・オマーン関係（ワーディ・アル・カビール地区
モスク付近での銃撃事件に対するモーリタニア政府声明）
7月16日 第5回サヘル同盟総会
7月20日から22日 ガズワニ大統領の第6回AU中間調整会合への参加
7月23日 サレハ経済相のG20開発大臣会合出席
7月31日 ハニーヤ・ハマス政治局長暗殺に対する非難声明

【経済】

7月15日 当地通信状況に関する報告書の発表

【治安】

7月22日

マリ軍によるマリ側国境地域の村への襲撃及びモーリタニア人
殺害事件

【大統領選挙】

●CENI 委員長による第一回投票暫定結果発表

(7月1日付、当地政府系メディアAMI)

1. CENI を代表して、6月29日の選挙が、統一及び調和を維持し、多元的民主主義の規範を確立するという国民の意識の高さ、誠実さ及び愛国心を反映した、前向きで、穏やかで、責任ある競争の雰囲気の中で実施されたことを心から祝福する。

2. 我々は、選挙プロセスの各段階を通じて、国民が次の5年間の大統領を選ぶことができるよう透明で公正な競争の実現のための基盤を作る努力をしてきた。我々は、アッラーとすべてのパートナーの強力な支援のおかげで、これらの基盤が比較的よく準備されたと感じている。この機会に、政府、候補者、政党、市民社会団体、国際機関及びメディア各位に深い謝意を表す。これらの人々とすべてのモーリタニア人は、建設的な協力と鋭い指導、適切な助言をもって我々の努力を支えてくれた。

3. CENI は、憲法及び大統領選挙に関する法律や規則、特に2024年4月19日付けの政令に基づき第一回投票を実施した。7人の候補者が1,939,342人の有権者の信頼を競い合い、4,503箇所の投票所が設置され、そのうち52箇所は国外在住のモーリタニア人のための在外投票所であった。選挙の結果、以下の暫定結果が得られた。

4. 6月29日の選挙結果に関するすべての暫定データは、My CENIプラットフォームに掲載されている。

●国際選挙監視団による予備声明の発表

3者合同記者会見 (AU、CEN-SAD、OIF)

(7月1日付)

1. AU

(1) 団長であるドミシアン・ンダイシミアエ (Mr. Domitien Ndayizeye) 前ブルンジ共和国大統領は、選挙は全体的に平和的な社会・政治環境の中で行われ、大きな事件は発生しなかったと述べた。しかし、CENI の能力が強化されたにもかかわらず、野党は選挙人名簿に疑念を抱いている。

(2) ンダイシミアエ団長率いる27名の選挙監視ミッションが、アッサバ、ダーヘル・ヌアディブ、ゴルゴル、ギディマカ、ホード・エッシャルギ、ホード・エル・ガルビ、ヌアクショット北部、ヌアクショット西部、ヌアクショット南部、

トラルザの各州の242の投票所をカバーした。

(3) 投票の実施に関して、ンダイシミア団長は、選挙職員がほとんどのケースで投票手続きをよく理解していたと感じた。また、シールと投票ブースの使用により、投票の秘密が尊重されており、同団長の見解では、これは投票の透明性と信頼性をさらに保証するものである。

(4) AUミッションは、大半の候補者の代理人が投票日に任務を遂行できたことにも言及した。大統領候補とその挑戦者であるアベイド候補、ムフタール候補を含め、平均3人から4人の候補者代理人が投票所にいたことを指摘した。

(5) 開票作業については、監視団の立会いのもとで行われた。また、訪問したほぼすべての投票所で、候補者の代理人が署名入りの記録を受け取っていたことにも言及した。

(6) My Geniのウェブサイトが開設され、結果が即座にフィードバックされるようになったことを歓迎した。CENIによる暫定的な結果公示に留意し、第一回投票でガズワニ候補が554,956票(55.26%)を獲得し、再選されたことを確認した。続いてアベイド候補が218,546票(22.10%)を獲得した。

(7) 最後に、AUミッションは、モーリタニア国民とその政治層が、主にコンセンサスによって政治分野を規制するメカニズムを見出したことについて、その成熟度を称賛した。また、2024年6月29日の選挙が選挙サイクルに沿って実施されることを確保するためにとられた措置について、国家当局を称賛した。

(8) 一連の勧告を策定した同ミッションは、予備声明の後に、より詳細かつ網羅的な最終ミッション報告書を提出することを明示した。ミッションは2024年7月3日までモーリタニアに滞在する。

2. CEN-SAD

(1) トーゴのCENIの元委員であるチャムバク(Mr. Ayassor Tchambakou)ミッション団長は、モーリタニアが現在例外となっているサブリージョンの厳しい治安情勢にもかかわらず、投票が平和的かつ平穏な政治情勢の中で行われたことを強調した。同ミッションは、選挙の成功に向けた政府とCENIの努力を称賛した。同団長は、発言の中で、民主的プロセスと国の安定を強化するため、すべての利害関係者に対し、平穏と責任の風土を維持するよう努めるとともに、必要な場合には、すべての異議申立てについて法的手段に訴えるよう呼びかけた。

(2) 同ミッションの監視方法はサンプリングに基づいていると語った。このアプローチにより、ヌアクショットの現地にチームを配備することができた。それ

以外の地域については、他のミッション、特にAU、OIF、選挙監視のための国家委員会（ONSEL）との協力及び情報交換に頼っている。

（3）チャムバク団長は、投票の実施に関するAUの見解を共有した。また、CENIによる有権者識別と結果の電子送信のための新技術の使用と習得を歓迎した。

（4）いくつかの小さな欠点が指摘されたが、投票の透明性、規則性、信頼性に影響を与えるようなものではなかった。チャムバク団長は、2024年6月29日の大統領選挙はモーリタニアの選挙に関する規定に従って、透明性、包括性、宥和性において満足のいく最適な状態で行われたと宣言した。

（5）また、政府、CENI、国際社会への勧告も行った。和平保証として、定期的に永続的な妥協点を見出すため、さまざまな利害関係者が粘り強く協議を続けるよう求める。同ミッションは、チャムバク団長を通じて、国連、AU、地域経済共同体（AMU及びCEN-SAD）に対し、選挙プロセスの成功例と、アフリカ大陸のあらゆる所でしばしば見られる暴力的な抗議行動を断ち切る今回の選挙の平和的性質を支援するよう要請する。

3. OIF

（1）チャドの元大臣ヌール（Ms Mahamat Nour）団長は、6月24日以来、同代表団が行ってきた活動について述べた。ヌール団長は、首都及びその周辺地域で、約20の投票所を監視し、開票作業に立ち会ったと述べた。

（2）続けてヌール団長は、同代表団がその評価と観察を支援するために、平和的選挙のための女性コンソーシアムが実施した全国選挙監視を利用したことを強調した。このため、同ミッションはいくつかの予備的確認を行ったが、これには選挙が、いくつかの事件にもかかわらず、平和的に実施されたという事実も含まれる。また、投票所の議長としての女性の割合は低かったものの、有権者や投票所の構成員として女性の存在感が大きかったことを強調した。

（3）同ミッションの見解では、投票作業は、IDカードによる選挙人名簿上の有権者の本人確認や消えないインクの使用等、法的手続きに従って実施された。同ミッションによれば、投票所職員は、選挙人証の配布により作業量が増え、投票作業が多少滞ったにもかかわらず、手続きをよく理解していた。

（4）OIFミッションは、オブザーバーと候補者代表の立ち会いの下、開票作業が透明性をもって手続きに沿って行われたことを確認した。また、ヌール団長は、各関係者に対し、異議がある場合には法的手段を用いるよう呼びかけた。

（5）OIFミッションは、モーリタニアの関係者が平和、民主主義、社会的結束を強化し、強固にするための努力を支援する意思を改めて表明した。

4. RIAMAPAI X（注：国際NGO）による記者会見

（6月30日付）

（1）トレゾー（Mr. Rabby Tresor）RIAMAPAI X代表は、選挙の民主的な実施に賛辞を贈った。

（2）CENIのパフォーマンスレベルと様々なパートナーから寄せられた見解、また選挙に伴うメディアキャンペーンの規模に満足の色を表明し、組織的措施に関するいくつかの指摘があったにもかかわらず、選挙の透明性と公正さが際立っていたと述べた。

5. 国際平和開発研究所による記者会見

（7月1日付）

（1）コフィ（Mr. Tetevi Eli Kofi）国際平和開発研究所所長に代わり、トーゴのフィアトゥウォ（Mr. Sessenou Kuadjo Fiatouwo）団長は、選挙が行われた状況を歓迎し、そのプロセスを特徴づける平穩で穏やかな雰囲気色を強調した。

（2）また、CENIがさまざまなパートナーから受けた見解に対する対応に満足色を示すととも色、モーリタニア国民が国家の継続性と安全を保証する選挙民主主義を行使・実施したことに祝意を表明した。

（3）団長は、活動家が、自らの候補者を支持するよう投票を促し、選挙スローガンを唱えているなど、いくつかの指摘について検討し、そのような行為は選挙プロセスの信頼性を損なうものではないと付け加えた。

（4）また、モーリタニアでの選挙監視ミッション期間中、同ミッションの活動を円滑に進めるための取決めが行われたことについて、モーリタニア当局に謝意を表明した。

●暫定結果発表後の抗議デモ

（7月2日付、内務・地方分権省声明及び当地メディア各社）

1. （7月2日付、内務・地方分権省声明）

（1）1日夜、ゴルゴル州カエディにおいて、市民及びその財産、公的施設、そして治安部隊を標的とした暴力的な略奪と破壊行為が発生した。治安部隊はこれに対処し、暴動を起こした集団の一部を現行犯で逮捕、拘束した。

（2）深夜に発生した突発的な事態であり、デモ参加者の数が多かったため、事態を制御するため、治安部隊はやむを得ずこれらデモ参加者を拘束することとなった。非常に残念ながら、今回の騒動で3名のデモ参加者が死亡した。うち2名は拘束中に他の拘束者もいる中で死亡し、残りの1名は病院に搬送された後に死亡した。

（3）この悲劇的な出来事を受け、内務・地方分権省は、亡くなった方々の遺

族に心からお悔やみを申し上げるとともに、アッラーの広大な慈悲が彼らに及ぶよう祈り、謹んで哀悼の意を表す。また、重傷を負い集中治療室にいるデモ参加者1名及び重傷を負った治安部隊員1名の早期回復を願う。

(4) 内務・地方分権省は、検察が本件を担当し、司法の監督の下で透明かつ徹底的な調査が行われることを一般に保証する。調査の進捗と結果については逐次公表する予定である。

2. (7月2日付、「C r i d e m」他)

(1) ヌアクショット、ヌアディブ及びモーリタニア南部の都市で発生したデモにおいて、治安当局は24時間以内に200人以上を逮捕した。

(2) 昨夜これらの都市で同時に発生した抗議活動において、警察、国家憲兵隊及び警備隊は、ヌアクショットで約100名、ヌアディブで約100名、ゴルゴル州及びブラクナ州では約70名が逮捕された。

(3) 1日深夜0時頃、デモ参加者と治安当局の衝突が発生した直後からモバイル通信が遮断された。

3. (7月2日付、当地独立系メディア「アル・アフバール」)

2日夕方、前1日の抗議に続いて、ヌアディブ市の主要道路沿いには憲兵隊が展開され車の通行を制限した。1日に同市では夜間の抗議活動が発生し、これに対処した憲兵隊は市内各地で100名のデモ参加者を逮捕した。デモ参加者は、反奴隷闘争復活イニシアチブ(IRA)リーダーであるアベイド候補の名を叫んでいた。

4. (7月2日付、当地独立系メディア「C r i d e m」)

ヌアクショットでは、7月1日に発表された大統領選挙でのガズワニ候補の勝利に伴う抗議デモを背景に、1日夜からモバイル・インターネット・アクセスが遮断されている。2日、ヌアクショットでは平穏が保たれ、商店は営業し、住民は日常生活を送っていた。当局は、モバイル・インターネット・アクセスの遮断についてコメントしていない。今回の選挙で次点となったアベイド候補は、不正を叫び、平和的な抗議行動を起こすと脅している。アベイド候補は1日、「最終決定」を下す前に、自身のチームが結果をまとめるのを待っていると述べた。

●大統領選挙：憲法評議会による最終結果の発表

(7月4日付夕方)

憲法評議会は、独立選挙委員会(CENI)が発表した暫定結果に対して、法定期間内に異議申立てがなかったとして、有効投票数の過半数を獲得したガ

ズワニ現大統領・候補（与党インサーフ）が第一回投票で当選した旨の最終結果を発表したところ、以下のとおり（関連記事別添）。なお、当国の憲法規定上、第一回投票で過半数を得た候補者がいる場合は、第二回投票（上位2名の決選投票）は行われず、第一回投票で最終結果が確定する。

1 最終的な投票概要

- (1) 有権者数：1, 939, 343人（注：当地人口は約473万人）
- (2) 投票者数：1, 074, 208人
- (3) 無効票数：53, 735票
- (4) 白票数：31, 644票
- (5) 有効投票数：988, 829票
- (6) 投票率：55.39%（注：2019年の大統領選挙の投票率は62.63%、昨年5月に実施された国民議会・州議会・市町村議会選挙（トリプル選挙）の第一回投票率は71.8%）

2 各候補得票数及び得票率（括弧書き）

- (1) ガズワニ候補（与党インサーフ）：554, 956票（56.12%）
（当選）
- (2) アベイド候補（野党サツワープ）：218, 546票（22.10%）
- (3) ムフタール候補（野党タワースル）：126, 340票（12.78%）
- (4) ムバーラク候補（野党FRUD）：35, 288票（3.57%）
- (5) バー候補（野党AJD/MR）：23, 617票（2.39%）
- (6) ソマリ候補（無所属）：20, 360票（2.06%）
- (7) ワフィー候補（無所属）：9, 722票（0.98%）

3 憲法第26条に定める有効投票数の過半数を得票したため、第一回投票でガズワニ候補が大統領に選出された。憲法第29条に従い、ガズワニ大統領の任期は現任期満了後の8月2日から始まる。

【ガズワニ大統領祝辞】

●岸田総理発ガズワニ大統領祝辞

（7月18日付、AMI）

“閣下のモーリタニア・イスラム共和国大統領への再選に際し、日本国政府及び日本国民を代表して、心からお祝いを申し上げます。

閣下のこの度の再選は、閣下に対するモーリタニア国民からの篤い信頼と期

待の表れであると考えます。閣下のリーダーシップの下、モーリタニアが地域の平和と安定の要であり続け、社会・経済開発が一層推進することを確信しています。

来年八月に開催される第九回アフリカ開発会議（T I C A D 9）を見据え、本年八月のT I C A D閣僚会合を含め、現在のアフリカ連合（A U）議長国であるモーリタニアと緊密に連携して準備に取り組めることをうれしく思います。その上で、閣下にぜひT I C A D 9に御参加いただき、日本とモーリタニアとの二国間関係を更に発展させる機会ともしたいと考えています。閣下に横浜でお会いできることを楽しみにしております。

閣下の御健勝及び一層の御活躍、並びにモーリタニアの御繁栄を心から祈念いたします。

令和六年七月

日本国内閣総理大臣 岸田文雄

モーリタニア・イスラム共和国大統領

モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ 閣下 “

●各国からの祝辞

1. U A E大統領

（１）１日、ガズワニ大統領は、ムハンマド・U A E大統領から電話を受けた。

（２）ムハンマド大統領は、モーリタニア国民が再びガズワニ大統領に対する信任を寄せたことへの祝意を表明し、同時に、U A Eがモーリタニアを引き続き支援・支持する意思を示した。

（３）これに対し、ガズワニ大統領は電話と祝意に感謝し、両国の協力・兄弟関係をさらに強化することへの意思を表明した。

2. セネガル大統領

（１）１日、ガズワニ大統領は、ファイ・セネガル大統領から電話を受けた。

（２）セネガル大統領は、ガズワニ大統領の再選への祝意を表明し、同時に、両国及び両国民の間の協力・兄弟・友好関係、友好関係をさらに深め、多様化させる意向を示した。

（３）これに対し、ガズワニ大統領は電話と祝意に感謝し、両兄弟国の協力関係をさらに強化することへの意思を表明した。

3. エジプト大統領

（１）１日、ガズワニ大統領は、エルシーシ・エジプト大統領から再選への祝

電を受け取った。

(2) エルシーシ大統領は祝電で、兄弟であるガズワニ大統領の再選を祝福し、ガズワニ大統領がAU議長として、彼の祖国並びにアラブ及びアフリカ地域に仕え成功するよう、アッラーが導いてくださることを祈る、また、再選は両国民の発展と繁栄をもたらすために、両国間の協力関係をあらゆる分野で強化する機会となることを喜ばしく思う、と述べた。

4. カタール首長

(1) 1日、ガズワニ大統領は、タミーム・カタール首長から再選への祝電を受け取った。

(2) タミーム首長は、ガズワニ大統領の成功を祈るとともに、両国の関係が発展し、成長することを願った。

5. サウジアラビア国王及び皇太子

(1) 1日、ガズワニ大統領は、サウード・サウジアラビア国王から再選への祝電を受け取った。

(2) サウード・サウジアラビア国王は、心からの祝福とともに、ガズワニ大統領と国民のさらなる進歩と繁栄を祈願した。

(3) また、両国及び両国民の間にある兄弟関係の優れた関係を歓迎し、両国があらゆる分野でその関係を強化し発展させるために努力することを表明した。

(4) 同日、ガズワニ大統領は、サルマン・サウジアラビア皇太子兼首相からも再選への祝電を受け取った。サルマン皇太子は、心からの祝福とともに、ガズワニ大統領とモーリタニア国民のさらなる成功と繁栄を祈念した。

6. パレスチナ大統領

(1) 1日、ガズワニ大統領は、アッバース・パレスチナ大統領から再選への祝電を受け取った。

(2) アッバース大統領は祝電で、大統領が再選されたことに対して、心からの祝福を申し上げる、これは、ガズワニ大統領が国民から大いなる信頼を受けていることの証であり、再選につながった民主的プロセスが成功裏に進行したことを示している、アッラーがあなたを導き、国と国民をさらなる発展と成長へと導いてくださることを祈る、この機会を捉え、我々の兄弟・連帯関係がさらに発展し、両国の共通の利益にかなうことを確信している、正当な戦いにおける我々人民への支持というあなたの確固たる立場を評価する、モーリタニアのさらなる進歩と繁栄を祈念する、と述べた。

7. バーレーン国王

(1) 1日、ガズワニ大統領は、ハリーファ・バーレーン国王から再選への祝電を受け取った。

(2) ハリーファ国王は祝電で、心からの祝福を述べ、次の任期において、モーリタニアの国民が望むさらなる進歩と繁栄を達成するために成功を祈念する、また、両国間の関係がさらに発展し成長することを望んでいる、と述べた。

8. オマーン国王

(1) 2日、ガズワニ大統領は、ハイサム・オマーン国王から再選への祝電を受け取った。

(2) ハイサム国王は祝電で、ガズワニ大統領が、兄弟国であるモーリタニア国民のために責務を引き続き遂行し、国民の希望と願望を実現し、両国を結びつける良好な関係を引き続き発展させるよう、心からの祝意と成功を祈念する旨を表明した。

9. ガンビア大統領

(1) 2日、ガズワニ大統領は、バロウ・ガンビア大統領から電話を受けた。

(2) バロウ大統領は、改めて寄せられたモーリタニア国民の信頼と、再選に対しガズワニ大統領に祝意を表するとともに、両国及び兄弟である両国民の間の協力・友愛・友好関係の深化と多様化への決意を表明した。

(3) これに対し、ガズワニ大統領は、バロウ大統領からの電話と祝意に謝意を表するとともに、兄弟国である両国の協力・友愛関係を強化したいとの意思を強調した。

10. アルジェリア大統領

(1) 2日、ガズワニ大統領は、テブン・アルジェリア大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) 親愛なる兄弟である大統領に対し、再選され2期目の任期を迎えられるにあたり、心から祝意を表する。モーリタニア国民から、あなたの賢明な指導の下、モーリタニアの繁栄、安全及び安定のために、モーリタニアを率い、成長と発展の歩みを続けていくという、あなたの名誉ある人柄に対する新たな信頼が寄せられたことを受け、あなたの崇高な職務の遂行において、あらゆる成功がもたらされることを祈念する。

(3) この機会に、友愛の絆を強め、両国間の既存の協力を強化し、共通の利

益のために戦略的パートナーシップを強化・拡大し、安全と安定の環境の中でより大きな連帯と統合を目指すマグレブとサヘル地域における両国民の願望の実現に貢献することを目的とした協議と調整に対する我々の確固たる信念と絶え間ない関心について、あなたに改めてお伝えする。

(4) 大統領、そして親愛なる兄弟よ、改めて祝意と成功を心から祈念する。

1.1. モロッコ国王

(1) 2日、ガズワニ大統領は、モハメッド6世モロッコ国王から再選への祝電メッセージを受け取った。祝電配下のとおり。

(2) モーリタニア国民が大統領としてのあなたへの信頼を新たにしたことを受け、心からの祝意を表するとともに、あなたの国民が熱望する進歩、繁栄及び全体的な発展を達成するために、あなたが賢明に国をリードし続け、成功を収めることを祈念する。

(3) この機会に、あなたとともに、両国の際立った協力関係をさらに強化、発展させ、兄弟である両国民を結びつけ、共通の願望に応える友愛と連帯の深い絆の強さを体現する、模範的なパートナーシップのレベルまで高めていくとの固い決意を確認する。

(4) 大統領であり親愛なる兄弟へ、改めて心からの祝意を表し、ご健康、ご多幸及びご長寿を祈念する。

1.2. クウェート首長

(1) 2日、ガズワニ大統領・次期大統領は、再選に際し、サバーハ・クウェート首長と会見し、同首長の祝辞を受けた。

(2) サバーハ首長は、ガズワニ大統領の再選を心から祝福するとともに、同大統領のご活躍、ご健康とご多幸、また、モーリタニアと兄弟であるその国民のさらなる発展と繁栄を祈念した。

1.3. ブルンジ大統領

(1) ンダイシミア・ブルンジ大統領は、ガズワニ大統領の再選を祝うメッセージを自身のX（旧Twitter）に掲載した。メッセージは以下のとおり。

(2) モーリタニアの大統領選挙において、民主的かつ平穏なプロセスを経て、独立選挙委員会によって勝利が宣言されたガズワニ氏を心からの祝意を表する。

ブルンジは、あなたの新しい任期中の全面的な協力を再確認する。

1.4. イエメン大統領指導者評議会議長

(1) 3日、ガズワニ大統領・次期大統領は、アリーミー・イエメン大統領指導評議会議長から再選への祝電を受け取った。

(2) 祝電では、同大統領指導評議会議長が自らの名、評議会メンバー及びイエメン政府の名において、選挙での勝利に対する大統領・次期大統領への心からの祝意を表した。また、ガズワニ大統領の賢明なリーダーシップの下、大統領の職務におけるあらゆる成功と、兄弟国モーリタニア国民のさらなる発展と繁栄を祈念した。

(3) さらに、同大統領指導評議会議長は、イエメン、その国民及び政治指導者を支援するために、ガズワニ大統領・次期大統領及びその政府がとった名誉ある立場を歓迎した。最後に、同大統領指導評議会議長は、兄弟国である二国間の様々な分野における実りある二国間協力への信頼を表明した。

15. 露大統領

(1) 3日、ガズワニ大統領・次期大統領は、プーチン露大統領から祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) あなたのモーリタニア大統領への再選に際し、あなたのご成功とご健康、そしてモーリタニア国民のご繁栄を心より祈念する。

露・モーリタニア関係は伝統的に友好的である。両国民の利益のため、あらゆる分野における建設的な二国間協力のさらなる発展に貢献するため、国家元首としてのあなたの行動に期待している。

16. イラン大統領臨時代行

(1) 3日、ガズワニ大統領は、モフベル・イラン大統領臨時代行から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) モーリタニア大統領に再選されたことに、心からの祝意を表す。この新しい任期中に、両国が共有する多くの点と潜在力に照らし、政治・経済・文化の様々な分野で関係が拡大し、強化されることを期待している。全能のアッラーに、あなたのご健康とご成功、そして友好国であり兄弟国であるモーリタニアの人々のご発展とご繁栄を祈念する。

17. スペイン首相

(1) 3日、ガズワニ大統領・次期大統領は、サンチェス・スペイン首相から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) モーリタニア大統領に再選されたこと、また選挙が円滑に行われたことに祝意を表す。

モーリタニアはスペインの隣国であり、パートナーであり、友人であり、マ

グレブ及びサヘル地域の鍵となる同盟国である。我々の二国間関係は、安全保障、防衛、国境管理、移民の流れ及び漁業などの分野において戦略的なものである。

非常に素晴らしい思い出となっている本年2月のモーリタニア訪問でも感じられたが、両国の絆と協力関係はますます強化・増大されている。すでにお伝えしているように、二国間でもEU域内でも、モーリタニアに対する我々の確固たるコミットメントを当てにしていきたい。

あなたの最大限の成功を祈念するとともに、あなたの今後の任期に対する自分及び自分の政府の協力と支援を改めて表明する。

18. セネガル大統領

(1) 3日、ガズワニ大統領は、ファイ・セネガル大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) 電話会談の後、貴国の最高司政権への見事な第一回投票での再選に対し、改めて心からの祝意を表す。

また、この機会に、あなたの同胞のために尽くすというあなたの使命の追求における成功を祈念するとともに、両国の友好・友愛関係及び協力関係を強固なものにするために、引き続きあなたと協力できることを楽しみにしている。改めて、ご健康とご多幸を祈念する。

19. チュニジア大統領

(1) 3日、ガズワニ大統領・次期大統領は、サイード・チュニジア大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) あなたがモーリタニアの大統領に再選されたことを祝い、チュニジア国民及び自身の名において、心からの祝辞と、健康と幸福をお祈り申し上げる。あなたが引き続き果たされる崇高な任務でのご成功を祈念する。

この機会に、私は両国間の兄弟関係と多岐に亘る協力及び実りある交流に満足の意を表す。あなたの再選により、両国の協力・連携がさらに強化され、歴史的な両国の関係強化と、両国民の利益のための多様で効果的なパートナーシップの確立に向けた取組みが一層進むことを確信している。あなたを兄弟かつ名誉ある客人として適切な時期に第二の祖国チュニジアに再度ご招待する。

20. ジブチ大統領

(1) 3日、ガズワニ大統領・次期大統領は、ゲレ・ジブチ大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) あなたが大統領として任期を継続することにモーリタニア国民が賛成票

を投じた今、私は心から祝意を表す。

第一回投票での圧倒的多数による再選の支持は、あなたの政治的リーダーシップに対する国民の大多数の支持を反映したものである。

あなたを最高権力者として選んだことで、モーリタニア国民は冒険ではなく経験を選んだことは疑いの余地がない。あなたの賢明な指導の下、兄弟国モーリタニアは不安定なサヘル地域において安定及び平和の実現を大いに進展させるだろう。重ねて心からの祝辞を送る。

2.1. マリ暫定大統領

(1) 4日、ガズワニ大統領・次期大統領は、ゴイタ・マリ暫定大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) モーリタニアの最高権力者に再選されたことを祝い、マリ国民及び私自身の名において、心からの祝意を表す。国運を導くためにモーリタニア国民があなたに再び寄せた大きな信頼は、社会計画に対する国民の支持を如実に示している。

あなたと共に、マリ・モーリタニア両国の友好関係と協力を強化するために引き続き努力できることを嬉しく思う。

あなたの取組みの今後の成功をお祈りし、ご健康と幸福、そしてモーリタニア国民のご発展とご繁栄を祈念する。

2.2. ポルトガル大統領

(1) 4日、ガズワニ大統領・次期大統領は、ソウザ・ポルトガル大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) モーリタニア大統領に再選されたことを祝い、ポルトガル国民及び自身の名において、心からの祝意を表し、あなたが引き続き果たされる崇高な任務成功を祈念する。両国及び両国民を結ぶ絆を強調し、ポルトガル・モーリタニアが地中海西部協力プロセス（5+5会合）の枠組みを含む二国間及び国際的な協力の強化に向けて、引き続き努力していくことを確信している。重ねて祝意を表するとともに、大統領及びモーリタニア国民のご幸福とご発展を祈念する。

2.3. チャド暫定大統領

(1) 4日、ガズワニ大統領・次期大統領は、イトゥノ・チャド暫定大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) 最高権力者に輝かしく再選されたことに心からの祝意を表す。第一回投票での圧倒的な勝利は、あなたのリーダーシップと賢明かつ断固とし

た国家運営能力に対する国民からの信頼を示している。あなたの卓越したビジョンの下で、モーリタニアは進歩と発展の大きな戦いに勝利し続けることだろう。

この機会に、両国間の友好及び協力の絆を強化することに対するチャドのコミットメントを改めて表明する。我々の二国間協力がサヘル地域の平和及び繁栄の促進に寄与することを確認する。モーリタニアの民主主義がこの選挙を通じて強化された機会に、あなたの崇高な使命の達成における成功を祈念する。両国民の幸福のために、我々のパートナーシップが引き続き発展することを確認している。

24. イタリア大統領

(1) 4日、ガズワニ大統領・次期大統領は、マッタレラ・イタリア大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) 大統領に再選されたことを祝い、イタリア及び自身の名において、モーリタニア国民が託した次期政権におけるご成功を心から祈念する。

イタリアは、モーリタニアを重要性が増しているパートナーと見なしており、その証としてヌアクショットに大使館を開設することを決定した。この文脈で、すでに強い友好と協力の絆で結ばれている両国が、サヘル及び西アフリカの安定及び成長のための共通の取組みの中で、新たに関係が深化する機会を見出すことを確信している。

あなたのご健康と、友好国モーリタニア国民のご繁栄を祈念する。

25. シリア大統領

(1) 4日、ガズワニ大統領・次期大統領は、アサド・シリア大統領から再選への祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) モーリタニア国民のあなたに対する信頼が再び高まったことを祝し、大統領選挙での勝利を祝うとともに、モーリタニア国民の利益のために引き続き成功を祈念する。

シリア・モーリタニアの友愛関係を強化し、両国民の利益となるあらゆる分野での二国間協力を発展させるためあなたと協力したい。特に、シリアに留学し、両国関係を豊かにしたモーリタニア人学生の使節団を通じて、両国間には常に強い絆がある。

イスラム暦の新年が近づくにあたり、心からの祝意を表するとともに、アッラーの祝福が、この機会にあなたとモーリタニア国民に、善と幸福、そして祝福で満ちたものとして繰り返されますように。

26. 中国国家主席

(1) 5日、ガズワニ大統領・次期大統領は、習・中国国家主席から再選の祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) 私は、あなたが大統領に再選されたというニュースを喜びとともに受け取った。この機会に、中国政府及び中国人民を代表して、心からの祝賀と温かい挨拶を申し上げる。あなたの指導の下で、モーリタニアが国家建設において新たな成果を達成することを確信している。

中国とモーリタニアは歴史的な友好関係を築いており、近年、我々の共同指導の下で両国の関係はさらに強化された。二国間関係は健全かつ安定的に発展し、あらゆる分野での交流と協力が実りある結果を生んでいる。

2022年の第1回中国・アラブ首脳会議及び2023年の第31回世界大学夏季大会開会式のマージンで行われた二度の会談では、我々は中・モーリタニア関係の発展の方向性を決定する重要な合意に達した。

私は中・モーリタニア関係の発展を非常に重視しており、両国の友好と協力関係をさらに高めるために引き続き共同で努力する所存である。

北京で9月に開催される中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）首脳会議でお会いできることを楽しみにしている。

27. 仏大統領

(1) 5日、ガズワニ大統領・次期大統領は、マクロン・仏大統領から再選の祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) 6月29日の選挙結果が最終的に発表された今、あなたがモーリタニアの大統領に再選されたことに祝意を表す。また、モーリタニア国民全体に対しても成功を祈念する。

モーリタニア国民は第一回投票であなたに信任を示したことにより、あなたが掲げる公約への揺るぎない支持を確認した。

私は、両国を結ぶ古くからの特別な関係にふさわしい二国間のパートナーシップを強化するため、引き続きあなたと共に取り組む用意があることをお伝えしたい。特に私は、モーリタニアの経済繁栄に貢献し、法の支配の擁護やテロの脅威拡大との闘いなど、地域の安定に向けた決意を支援するために引き続き尽力する。

28. 欧州理事会議長

(1) 9日、ガズワニ大統領・次期大統領は、シャルル・ミシェル欧州理事会議長から再選の祝電を受け取った。祝電は以下のとおり。

(2) ガズワニ大統領の再選に祝意を表す。我々は、EUとモーリタニアの

良好かつ誠実な協力関係を高く評価する。我々を結ぶ信頼の絆に感謝する。皆様のご成功を祈念する。

29. フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長（7月4日、Xへの投稿）

ガズワニ大統領が今次選挙で再選したことに祝意を表す。グローバル・ゲートウェイ戦略を通じて我々のパートナーシップが継続を心待ちにしている。

30. ブリンケン米 국무長官（7月6日、Xへの投稿）

この度再選したガズワニ大統領及び投票箱を通じて民意を反映させたモーリタニア国民に祝意を表す。我々の共通の優先事項を推進するために引き続き共同で取り組めることを心待ちにしている。

【内政】

●アベイド候補インタビュー（大統領選挙）

（7月3日付、仏系メディア「France24」）

1. （ゴルゴル州カエディでの抗議デモ参加者3名の死亡について、）当局の主張は虚偽である。暴動は全くなかった。彼らはただの市民で、長年権利を奪ってきた現体制に失望し、変革を求め、平和的に抗議していただけである。選挙結果の改ざんにより、変革を許さず、国民の意思及び票を歪めた。モーリタニアの人々は平和的に立ち上がり抗議したが、当局は殺人、抑圧、投獄で応じた。現在、数百、数千のモーリタニア人が拘束されており、収容施設が不足しているため、軍事施設が拘束場所に変えられた。状況は悪化し続け、死者が出ている。

2. （デモ参加者にどのようなメッセージを送るかについて、）彼らには平和的なデモ及び抗議の権利があり、権利に基づき抗議を行っている。抑圧的で血生臭い現政権は理由もなく抑圧と殺害を続けている。現政権はモーリタニア国民を抑圧し、恐怖を植え付けている。デモ参加者は一切の破壊行為を行っておらず、公共財産への損害を与えていない。当局は捏造や虚偽証拠を得意としているが、デモによる破壊行為などの証拠はなく、当局は何の証拠も示すことができていない。

3. （1）（選挙結果は捏造されており、有権者の意思を反映していないとしているが、なぜ憲法評議会に異議申立てを行わなかったについて、）国民が自分を支持していることは明白である。大規模な集会で、全てのモーリタニア人が現政権に対する拒否を示しており、現大統領が選挙集会を行うたびに、人々

は「ゼロ」と叫びガズワニ大統領を否定した。選挙が公正に行われたのであれば、なぜ現政権は市民を抑圧し、力を使い、殺害するのか。これは、ガズワニ大統領が国民により選ばれた大統領ではない証拠である。我々は、憲法評議会、CENI、最高裁判所といった政権寄りの役人に訴えても、無意味であることが分かっているため異議申立てを行わなかった。

(2) 現在、モーリタニアには部族間の対立が存在すると言われているが、これは現政権の嘘である。我々の支持者は全てのモーリタニア人であり、異なる部族や人種が含まれている。抑圧は、すべての市民に対して行われている。

(3) 選挙結果に疑問を持つのは我々だけではない。選挙監視団も透明で公正だと言っているが、現政権の捏造された結果を受け入れることはできない。我々は独立した選挙監視機関を求める。

● 「Jeune Afrique」によるメルズーグ外相へのインタビュー

(7月16日付、汎アフリカ系メディア「Jeune Afrique」)

1. 「Jeune Afrique」

(1) 「一人を除いて(当館注：アベイド候補を指す。)、すべての候補者が投票の信頼性を証言した」とモーリタニア外交トップは断言する。メルズーグ外相は、モーリタニアの大統領選挙とその後の暴動以来、初めて発言した大臣である。彼はガズワニ現職の勝利及び選挙の透明性を再確認した。

(2) こうして2019年(注：前回大統領選挙)のシナリオが繰り返された。6月29日の第一回投票の結果が公表され、ガズワニ候補が当選者となるや否や、彼の主なライバルであるアベイド候補は「選挙の強奪」を非難した。しかし、7月4日、憲法評議会は、56.12%の得票率で現職大統領の勝利を確認した。6人の候補者が一騎打ちとなったこの投票は、まさに2人の決闘となった。

(3) ヌアクショットとヌアディブではヒートアップが逮捕につながり、南部のカエディでは暴動で3人が死亡した。レミン大臣率いる内務省は7月8日の声明において、逮捕された市民は全員釈放された旨述べ、「治安状況は正常に戻った」ことを保証した。しかし、それ以外の公式な発表がないため、疑問は解消されないままである。モーリタニア当局は慎重で、その場で対応することはほとんどない。

(4) 「Jeune Afrique」の取材に対し、メルズーグ外相は、選挙後の状況についてコメントすることを選んだ。この国家元首の側近は、外交を担当する前に、2019年から2022年まで内務相を務めていた。現在アフリカ連合(AU)の議長国であることを考えると、このポストは戦略的である。

2. (問) 2019年と同様、選挙後の不安を防ぐことができなかったことをどのように説明するか。

(答) 2019年の選挙の教訓はすべて学んでおり、2つの状況を比較することはできない。大統領は任期中、宥和を政策の不変の特徴とし、対話を行動の原則とした。最初の数か月間から、この若い民主主義に新たな展望を開くために、あらゆる説得力と背景を持つ政党や市民社会のすべての関係者や指導者に門戸を開いた。

当時、モーリタニア人はもはや互いの意見に耳を傾けていなかったことを忘れないでほしい。ガズワニ大統領は、タブーにとらわれることなく、国民的融和の強化に関わるすべての問題に対処することを、すべての人に再確認した。2022年9月、すべての政党は、選挙規則の改革、新しい選挙人名簿の作成、平等に基づいて任命され、選挙の透明性及び信頼性の保証を提供する新しい独立選挙委員会(CENI)の設立を含む協定に署名した。

3月10日、11日及び12日には、大統領選挙の準備と政治的ガバナンスの推進に関する全国協議デーが開催され、公認されていない政党を含むすべての政党が参加した。各段階で関与した候補者の代表は、いかなる機能不全も認めなかった。さらに、これらの代表は、すべての候補者がすべての投票所において代理人が手配されることを確実にするために、CENIの手配によって移動した。

3. (問) しかし、結果は野党によって争われた。

(答) 開票は、開票所の代表者の立会いのもとで行われ、代表者は集計記録に署名し、そのコピーを取った。CENIの結果発表は、同集計記録のオンライン公開に依拠し、誰でもそれを見て票数を確認することができた。

候補者のうち一人を除く全員が、大統領選挙の透明性及び信頼性を証言した。このことは、憲法評議会に不服申立てがなされなかったことから明らかである。それにもかかわらず、結果が争われていること、そしてそれが最低限の重要な証拠にも裏付けられていないことに、我々は驚きを隠せない。これは、完全に独立した立場で仕事をした国際選挙監視団の意見でもある。

4. (問) もし結果がガズワニ大統領に有利でなかったら、彼は敗北を受け入れたらどうか。

(答) 間違いなく受け入れる。ガズワニ大統領は選挙集会で、真っ先に勝者を祝福し、友好の手を差し伸べると公言した。モーリタニア国民全員を証人にしたのであり、誠実で勇気あるものであった。

5. (問) 最近の選挙後の出来事については、ほとんど情報が伝わってこない。7月8日、内務大臣は、逮捕された「すべての市民」が釈放されたと述べた。しかし、アベイド氏は、1500人の支持者が逮捕されたと語った。

(答) 第一に、最近の出来事がすべての人々にとって周知である点に注目してほしい。内務省はプレスリリースを通じて定期的に状況を国民に知らせている。第二に、逮捕者(arrestation)は出ていない。むしろ、治安維持活動や暴力行為への参加又は扇動が疑われる人物に対する職務質問

(interpellation)である。その目的は、公共の秩序を守り、人々と財産を保護するための措置を講じることであった。職務質問を受けた者は全員、警察の事情聴取を受けた後、釈放された。

6. (問) ヌアクショットにおける警察のプレゼンスは大幅に強化された。デモに武力で対応する必要はあったのか。

(答) 首都に敷かれた警備態勢は、2019年に展開されたものと共通するところはない。これは予防的なものであり、抗議行動に武力で対応することを意図したものではない。たしかに数回の介入はあったが、それは人々や財産に対する暴力行為に対応したものであった。

7. (問) 内務大臣は、暴力に関与した「外国人」についても言及した。これは誰のことを示しているのか。

(答) モーリタニアはオープンで歓迎する国だ。特に西アフリカなど、多くの外国人コミュニティがある。残念ながら、デモ隊による暴力行為で職務質問を受けた人もいる。

8. (問) 公式にはカエディでの死者は3人だが、市民団体はその2倍又はそれ以上だと指摘している。

(答) 残念ながら、カエディでは死者が出ており、それは嘆かわしい事実である。数字で一喜一憂するのは実に不健全である。我々にとって、1人の死者であろうが多すぎる。国はこの問題に関して非常に透明性を保ち、亡くなった人の正確な数を示し、遺骨を親族に返し、悲しむ家族に哀悼の意を表し、調査委員会を設置した。我々の国では、誰もが誰もを知っており、死者の数を隠ぺいすることは不可能である。

9. (問) 彼らはどのような状況で亡くなったのか。

(答) 再度述べるが、調査委員会が設置され、この問題は裁判所に付託された。結論が公表され次第、すべては完全な透明性をもって明らかにされるだろう

う。

10. (問) これらの事件はカエディで起こったもので、ターゲットにされたのはモーリタニアの黒人層である。一部の市民団体や組織は、当局の人種差別を非難している。これにどのように対応するのか。

(答) これは魔女狩りではない。なぜなら、ある都市のデモ参加者が、その都市の社会的・民族的構成を反映していることは明らかだからである。そして、暴徒だけが標的にされたことは誰もが知っている。

11. (問) アジズ前大統領の政党「変革戦線」の指導者はなぜ逮捕されたのか。

(答) この未承認組織の幹部メンバーは全員、例外なく釈放された。我々は何でも法廷に引き出そうとしておらず、治安と公序良俗のために譲歩することなく、事態を沈静化させようとしているのである。

12. (問) 正式に再選された大統領が最初にとる措置は何か。

(答) それは大統領が決めることである。しかし、彼は次の5年間の任期の方向性を「若者(jeunesse)」で定めた。刷新された高潔な統治が実施される。公共サービスの提供とその質は、常に関心事となるだろう。安全、安定、対話がこの任期の合言葉である。

13. (問) アベイド氏との対話を続けるのか。

(答) 政治的対話は大統領の言説と行動において不変である。選挙公約において、またCENIから結果が発表されるや否や、強い信念をもってこのことを再確認した。ガズワニ大統領の社会ビジョンは、民主的制度及び共和制の価値観に基づき、平和で平穏な環境の中で、国の進歩及び繁栄を保証することである。

我々の未来は我々の手の届くところにあり、我々の連帯責任とは、民主主義制度を強化・再生し、不平等と闘い、社会正義及び領土の公平性が保証される空間において国民の団結と結束を維持することによって、ともにそれを具体化することであると確信している。モーリタニア国民の大多数が抱いているこの希望に、我々は深く執着しているのである。

【外政】

- 第5回日本・アラブ経済フォーラムへの参加
(7月11日付、当地政府系メディアAMI)

1. アラブ連盟、日本外務省及び経済産業省が主催する第5回日本・アラブ経済フォーラムが水曜日（10日）、東京で開催された。モーリタニアからは、ラム（Mr. Moctar El Housseynou Lam）漁業・海洋経済相を団長とし、ワーキフ（Mr. Yahya Ould Ahmed El Waghef）SMCP 総裁、ボヤ（Mr. Ahmedou Saleck Boyah）経済・持続可能な開発省官民連携総局長、アフメド（Ms Matichiane Mint Soueid Ahmed）DX・改革・行政近代化省顧問、ディア（Mr. Amadou Bocar Dia）漁業・海洋経済省内水面・沿岸漁業局長、ブジュマ（Mr. Abdarraahmane Boujem'aa）漁業・海洋経済省漁業経済社会調査局長が同行した。

2. 本フォーラムは、日本とアラブ諸国との経済協力強化の方法を探ることを目的としている。その一環として、アラブ側と日本側の官民による経済貿易会議が開催された。

3. 閣僚会議では、エネルギー安全保障、再生可能エネルギー、新興技術及び人工知能などのイノベーションなど、共通の関心事項について政治的な議論を深める。また、日本とアラブ諸国との経済協力の新たな機会を模索する。

4. フォーラム（注：官民経済カンファレンス）では、相互投資の拡大（経済関係の多様化、協力とイノベーション）、気候変動対策（再生可能エネルギー、廃棄物管理）及び新技術とサプライチェーン・レジリエンス（通信技術）の3つのテーマが含まれる。

5. フォーラムのマージンにおいて、ラム大臣は、日本かつお・まぐろ漁業協会会長と会談し、両者間で締結された漁業協定を通じた同社と同省との関係について協議した。会談の中で、ラム大臣は日本側に対し、他の遠洋魚種の加工及び価値向上のための投資を拡大し、その努力を倍加するよう要請した。また、ワーキフSMCP 総裁は、両者の共通の利益のために、両者間の関係を強化するために、日本の顧客数社と会談を行った。

6. ボヤ（Mr. Ahmedou Saleck Boyah）経済・持続可能な開発省官民連携総局長及びアフメド（Ms Matichiane Mint Soueid Ahmed）DX・改革・行政近代化省顧問は、新技術やデジタル化を含む様々な分野でのパートナーシップの機会について話し合うため、いくつかの日本のパートナーと会談した。

●第5回日本・アラブ経済フォーラムへの参加（その2）

(7月11日付、当地政府系メディアAMI)

1. 7月11日に東京で開催された第5回日本・アラブ経済フォーラム(JAEF)の2日目(最終日)は、日本とアラブ諸国の経済協力の様々な分野について話し合う閣僚会合が行われた。

2. 議論の焦点となったのは、需給におけるエネルギー安全保障、デジタルインフラとイノベーション、人工知能を含む新興技術、クリーンエネルギー技術、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する施策、エネルギーとデジタル化の分野における人材育成など、日本とアラブ諸国の間で強靱性のある経済発展を目指す分野であった。

3. ラム漁業・海洋経済大臣は同会合でスピーチを行い、アラブ諸国と戦略的パートナーである日本との実りあるパートナーシップ関係を強化するため、再生可能エネルギー、デジタル技術、イノベーションなどの共通の関心事である様々な分野においてアラブと日本の経済・投資関係を支援し、強化する方法を模索し続け、日本の経済・投資関係を支援・強化し、貿易・産業交流を確保するとともに、アラブと日本の市場において利用可能な投資機会を探るために、このフォーラムが重要であることを強調した。

4. また、ラム大臣は、アラブ側と日本側の官民間の経済・商業協力の基盤を築くため、自信を持って前進する両当事者の真剣な姿勢を確認するこのフォーラムの第5回開催により、この協力関係は強化されるだろうと付け加えた。

5. ラム大臣は、参加者の多さはアラブ諸国と日本の経済部門を活性化し、域内投資を発展させたいという願望及び双方に利益をもたらす真のパートナーシップの追求という両国の確固たる意志を反映していると述べた。

6. ラム大臣は、日本・アラブフォーラムは指導者と関係者の交流と対話の場であり、アラブ諸国で起きている経済・産業の変革に照らして日本企業が活動を刷新・拡大する重要な機会であり、将来的に日本とアラブ諸国の経済関係の強化につながることは必至であると指摘した。

7. モーリタニア政府は、特に日本とアラブのパートナーシップの枠組みの中で、電力生産、グリーン水素とその派生(アンモニア、メタノール、合成燃料など)、鉄鉱石加工、グリーン・スチール、さらに港湾、道路、高圧線、水素パイプラインなどのインフラ整備の分野で、パートナーに多くの投資機会を

提供しているとラム大臣は述べた。

8. ラム大臣は、日本政府やその他の日本の公式な協力チャンネルによって、以前から培われているアラブと日本の協力のレベルを称賛するとともに、この経済パートナーシップを強化・活性化し、特に再生可能エネルギー、石油、ガス、漁業、鉱業、人工知能、デジタル・インフラ、近代化・技術革新など、様々な経済分野におけるあらゆる利用可能な投資機会を含むように介入分野を拡大すること及び日本の最先端の経験から恩恵を受けるために人材能力の開発や専門知識の共有を行うことを呼びかけた。

●モーリタニア・露関係（外交関係樹立60周年記念式典：報道）

（7月11日付、AMI）

1 11日、メルズーグ外務・協力・在外モーリタニア人大臣は、外交アカデミーにおいてにおいて、モーリタニア・露関係樹立60周年記念式典を主宰した。本式典は、外務省、外交アカデミー及び当地露大使館の協力により開催されたもので、多分野に亘る二国間関係を強調し、その強化・発展に努めることを目的としている。

2（1）外務大臣に代わり挨拶を行ったメンクス（Mme El Alia Mint Yahya Ould Menkouss）外務省次官（大使）は、本式典は友好国である両国間の緊密な協力及び協調を祝うものであり、両国関係の歴史的意義を理解し、その現実を検証し、その将来を探り、その有望な展望を促進する機会であると強調した。

（2）また、モーリタニア国家の初期に確立されたこれらの関係は、常に建設的な努力と実りある貢献の豊かな歴史に基づいており、この協力は信頼と相互尊重に基づいていると強調した。

（3）さらに、両国の関係は目覚ましい発展を遂げ、教育、貿易、漁業、運輸など様々な分野で数多くの協定が結ばれており、ソ連及び露の大学や研究所を卒業したモーリタニア人幹部が、工学、医学、航空などの分野で、我が国の学術及び職業面に大きな影響を与えていると述べた。

（4）政治的な分野では、相互の公式訪問がこれらの関係の強さを反映していることを強調し、この点で、露は、2019年にガズワニ大統領就任後の最初の外国訪問先の一つであったことを指摘した。

（5）定期的な協議を通じてこれらの関係を強化し、貿易及びエネルギー分野での経済協力を強化し、科学的、技術的、専門的な協力を強化する努力を呼びかけ、特に、世界の良心に対する脅威となっている悲惨な悲劇へと変わったパ

レスチナ問題の解決に向け、国際レベルでの両国間の努力の重要性を強調した。

3 (1) ポリス・ゼルコ当地露大使は、モーリタニアと露の関係は長年にわたって続いており、あらゆる経済、開発及びその他の分野に及んでいることを強調し、ヌアディブ病院や海水淡水化プロジェクトといった協力の例を紹介した。

(2) また、最近露が主催したいくつかの国際会議にモーリタニア政府関係者が参加していること、露・アフリカ・サミットにガズワニ大統領が参加したことに触れ、両国関係が著しく発展していることを強調した。また、同大使は、同国が他の多くの分野でもこの関係を発展させるよう努力すると付け加えた。

4 (1) 本式典では、モーリタニア独立後の最初の4年間から始まる様々な時期の両国関係を記録した様々な文書や写真の展示を記念して、メルズーグ外相及びゼルコ大使による象徴的なテープカットが行われた。

(2) また本式典に関連して、外交アカデミーはモーリタニアと露の協力関係の様々な側面に関するセミナーを開催した。本セミナーは、アフメドゥ外交アカデミー事務局長の歓迎のスピーチで開会し、外交官や複数の省庁の職員が、関係の歴史的背景から経済・商業投資及び文化・教育分野に至るまで、様々な協力分野に焦点を当てたプレゼンテーションを行った。

●第5回サヘル同盟総会

(7月16日付、当地政府系メディアAMI)

1. 16日、サーレハ経済・持続可能な開発大臣は、ベルリンで開催された第5回サヘル同盟総会に30か国以上の国々及び国際機関からの150名の参加者とともに出席した。

2. サーレハ大臣はスピーチを行い、サヘル地域が平和、安全保障及び開発に影響を及ぼす複雑かつ複合的な課題に直面し続けていることを参加者に想起させた。また、気候変動や難民危機に直面する中で、サヘル地域の人々の食料安全保障を確保し、強靱性を強化できるよう、国際的なコミットメント及び支援を継続することの重要性を強調した。

3. 会議の終了時に配布されたプレスリリースでは、サヘル同盟は、複雑な状況にもかかわらず、サヘルの人々、特に若い人々への長期的なコミットメントを継続することを表明すると強調した。また、同同盟のメンバー国は、2017年か

ら2022年の間に、この地域の開発プロジェクトに対して230億ユーロを融資しており、その中には教育、雇用及び若者が優先分野として含まれる旨指摘した。

●モーリタニア・オマーン関係（ワーディ・アル・カビール地区モスク付近での銃撃事件に対するモーリタニア政府声明）

（7月21日付、外務・協力・在外モーリタニア人省声明）

1. 外務・協力・在外モーリタニア人省は、7月15日にオマーン的首都マスカットのワーディ・アル・カビール地区のモスクで発生した卑劣な攻撃を強く非難する。この攻撃により多くの無実の人々が犠牲となった。

2. モーリタニア政府は、この卑劣な攻撃がすべての宗教的及び道徳的な価値観に対する重大な侵害であることを強調し、兄弟であるオマーンとの完全な連帯とその安全及び安定を守るために取るすべての措置への支持を表明する。

3. また、この困難な時期にオマーン政府及び国民に対し深い哀悼の意を表明し、犠牲者の魂が安らかに眠り、天国で永遠の安らぎを得られるように、また遺族に慰めと忍耐力が与えられるように、そして負傷者が速やかに回復するように、アッラーにお祈りする。

●ガズワニ大統領の第6回AU中間調整会合への参加

（7月20日から22日付、当地政府系メディアAMI）

1. 概要

（1）AU議長であるガズワニ・モーリタニア大統領が、AUと地域経済共同体（RECs）及び地域メカニズムとの第6回調整会合に参加するため、アクラに到着した。

（2）アクラ空港では、駐ガーナ・モーリタニア大使、駐ガーナAU常駐代表、モハメド・サレム・ウルド・メルズーグ（Mr. Mohamed Salem Ould MERZOUG）外務・協力・在外モーリタニア人大臣、ガーナ情報大臣がガズワニ大統領を出迎えた。

（3）ガズワニ大統領には、メルズーグ外相、ジャイ（Mr. Moctar Ould Diay）大統領官房担当大臣、メイダ（Mr. Ahmed Ould Bah dit Hmeida）大統領府顧問、ブー（Mr. Sid' Ahmed Ould Bouh）大統領府顧問、アフメド（Mr. El Hacem Ould Ahmed）国家儀典局長が同行。

2. 第6回AU中間調整会合

(1) 21日午前、アクラ市内にて、AU議長であるガズワニ大統領が、AUとRECs及び地域メカニズムとの間の第6回中間調整会合の準備会議の議長を務めた。

(2) 同会合には、ファキAUC委員長、サス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領、アクフォ＝アド・ガーナ大統領、アザリ・コモロ大統領、メルズーグ外相、駐エチオピア・モーリタニア大使及び複数のAUC委員が出席した。

3. ガズワニ大統領による開会の辞

(1) まずはじめに、私の友人であり兄弟でもあるガーナ共和国のアクフォ＝アド大統領閣下、そして閣下を通じてガーナ政府及び国民が、模範的な条件の下、温かい歓迎と惜しみない歓待をしつつ、AU、RECs及び地域メカニズム間の第6回中間調整会議を主催し、開催してくださったことに祝意と感謝を申し上げます。また、RECs議長や特別職を担当する首脳であり、地域統合及び大陸統合への愛着とコミットメントを明確に示している、私の友人であり兄弟である首脳の皆様のご出席に感謝申し上げます。

(2) AUとRECsとの効果的な協調は、大陸統合プログラムの実施を加速化するために不可欠な手段である。我々の大陸が経済、社会及び安全保障上の多くの課題に直面していること、また、我々を取り巻く世界が多面的な危機に直面しており、それがアフリカ大陸の発展に悪影響を及ぼしていることを考えれば、一層重要である。

(3) 地域協力の国益及び地域のオーナーシップを保証するために、各国の開発計画が大陸のプログラムにうまく統合されるようにすることが急務である。そうすることで、アフリカ大陸のより良い統合が保証され、特に国連、WTO、IMF、世界銀行及びG20といったグローバル・レベルにおいて、アフリカ大陸がひとつの声を上げることができるようになり、グローバルな金融構造の改革、国際的な租税協力、不正な資金フローの削減及び持続可能な開発のための資金調達といった、アフリカにとって重要な問題に関するグローバルなアジェンダの明確化に貢献することができるようになる。

(4) 我々は、戦略的計画を強化し、地域電力プール、送電線、デジタルインフラ及び輸送インフラなど、必要不可欠な大陸インフラの運用開始を進めなければならない。我々はまた、アフリカ域内貿易を促進するため、手続きの簡素化、標準化、調和及び関連情報の流れによって貿易を促進する努力を倍加させなければならない。アフリカ大陸自由貿易地域(AfCFTA)の効果的な発効は、モノ、サービス及びヒトの自由な移動に大きな進歩をもたらし、この意味において大きな財産である。

(5) アジェンダ2063の第2次10か年実施計画の効果的な実施を加速

し、より多くの資金を動員し、必要なアドボカシーを提供することで大陸統合を強化するため、我々は、ウィリアム・ルト大統領の招待により、2025年から2028年までの国際開発協会（IDA）の第21回融資ラウンドへの支援を動員するためのナイロビ・サミットに参加した。このサミットでは、IDAの資金を1,000億ドル以上に大幅に増加させるという野心的な目標が掲げられ、そのうち300億ドルはドナー国によって動員されることになっている。

（6）さらに、アフリカ・韓国サミットへの参加は、アフリカの政府開発援助に充てられる韓国の資金を大幅に増額させることを可能にし、その額は55億ドルから100億ドルに増加し、さらにアフリカ大陸に投資する企業を支援するための輸出金融も加わり、2030年までに総額140億ドルに達するだろう。

（7）2024年6月にイタリアで開催されたG7サミットに参加した際にも、アフリカの視点から喫緊の課題、特に債務問題や譲許的条件による十分な資金調達へのアクセスに関する問題を提起した。

（8）今年度上半期中、AUミッションは、金融及びシェルパ・コンポーネントの作業、閣僚会合及び分野別作業部会会合に効果的に参加し、債務問題、公平なエネルギー転換、多国間開発銀行の改革及び国際課税の改革に関するアフリカの視点を提示した。

（9）我々の大陸は、9月にニューヨークで予定されている未来サミットにおいて、決定的な転換点を交渉するよう求められている。サミットから生まれる枠組み、特に、未来のための協定と、その付属書である「将来世代に関する宣言」及び「グローバル・デジタル協定」は、我々の懸念を反映し、提案される解決策において、我々の大陸が直面している課題を考慮に入れなければならない。すべての加盟国に対し、この歴史的なサミットの準備をより良く進めるため、現在進行中のプロセスに積極的に参加するよう求める。第9回FOCAC、ニューヨークでの未来サミット、COP29及びG20サミットなど、今後開催される主要なイベントにAUが効果的に参加できるよう、準備は本格化している。

（10）また、2024年10月にヌアクショットにて予定されているアフリカの教育に関するハイレベルフォーラムの開催に向けて、AUCと積極的に取り組んでいる。この場を借りて、AUのすべての機関、特に委員会とすべてのパートナーが、AUの第2次10か年計画、特に地域統合及び大陸統合の次元において、効果的に実施するために絶え間ない努力を続けていることに祝意を表す。

（11）統合及び開発がアフリカの将来にとって極めて重要な課題であること

を受け、我々アフリカの指導者は、この野心的なビジョンに断固として取り組み、我々のアジェンダ2063の目標である、安定し、強く、団結し、繁栄するアフリカを構築するためにあらゆる手段を講じるという、個人的にも集団的にも大きな責任を負っている。この目標が我々の手の届くところにあると確信し、この第6回AU中間調整会合の開会を宣言するとともに、この会議が成功することを祈念する。

4. バイ会談（リビア）

（1）ガズワニ大統領兼AU議長は、21日夕刻、第6回AU中間調整会合のマージンで、メンフィ首脳評議会議長と会談した。

（2）会談の中で、両首脳は、兄弟国である両国の間に存在する特別な関係と、あらゆる分野においてそれらを強化・発展させるための手段、共通の関心事である国際的・地域的問題について検討した。

●サーレハ経済相のG20開発大臣会合出席

（7月24日付、当地政府系メディアAMI）

1. サーレハ経済・持続可能な開発相は、昨日（23日）、ブラジル・リオデジャネイロで開催されたG20開発大臣会合に参加し、不平等の削減を目的とした宣言を採択した。

2. 同大臣は会合において、不平等との闘いには、経済、社会、環境及び政治の各側面におけるグローバルな理解が必要であると述べた。また、同大臣は、グローバリゼーションが国家間及び国家内の大きな格差につながっており、こうした格差は、気候変動、地政学的緊張及び移民危機などの現在進行中の課題によって悪化しており、特に発展途上国及び中低所得国に影響を及ぼしていると説明した。さらに同大臣は、不平等は単なる社会問題として扱うことはできず、むしろ世界経済の成長を脅かすものであると強調した。

3. また、AUは、不平等との集団的な闘い、アジェンダ2063の目標及びそれに適合する持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた野心を強化するすべての人々を歓迎すると表明した。我々が望むアフリカとは、多くのアフリカ諸国にいまだ蔓延している貧困、ジェンダー不平等及び基礎的サービスへのアクセス不足の問題に取り組むことで、すべての人の長期的な幸福及び生活の質を優先するアフリカである、と大臣は締めくくった。

4. 同大臣は、AUC及びNEPADの代表団とともに出席した。

●ハニーヤ・ハマス政治局長暗殺に対する非難声明

(7月31日付、当地独立系メディア「アル・アフバル」)

1. 国民議会

(1) 7月31日正午、本年4月に開会した通常会期の閉会会合が開催された際、モーリタニア国民議会は、イスラエルによるハニーヤ・ハマス政治局長の暗殺を非難し強く抗議した。

(2) メギット国民議会議長は、本日の議会の会合で、この卑劣な犯罪を非難し、抗議の意を表明し、亡くなったハニーヤ氏のために黙祷を捧げ、ファーティハの章(当館注:コーランの第一章、祈りや追悼の際に朗読される。)を朗読するよう呼びかけた。

(3) 国民議会議員らは、ハニーヤ氏暗殺を非難するため、国民議会の前で抗議活動を行った。抗議活動には、与野党を問わず様々な国民議会議員が参加した。

(4) 抗議活動の中で、複数の議員はこの凶悪な犯罪及びあらゆる地域での(イスラエルの)占領犯罪、特に米国を含む西側諸国の占領に対する無制限の支援に対する非難を表明した。

(5) 議員たちは、世界中の自由を愛する人々及びその国々に対して、この犯罪を非難し、不法な犯罪国家に対抗し抵抗を続けるパレスチナ人民を支援するよう呼びかけた。

2. 反奴隷闘争復活イニシアチブ (IRA)

(1) IRAは声明の中で、ハニーヤ・ハマス政治局長がテヘランで暗殺されたことを受け、相次ぐ危機と戦争、外交的解決策の欠如及び数か月に亘りガザに流れる血の滝を止めることができない国際社会により、すでに火の海となっているガザ地区の状況に油を注ぐこととなる、と述べた。

(2) またこのような行動を受け、国際社会は国際的かつ国境を越えるイスラエルによるテロ行為を止め、独立国家においてパレスチナ人に完全な権利を与なければならないと述べた。

(3) IRAが狂気の沙汰と表すイスラエルの行動があらゆる国際法や規範に違反し、独立国の主権を侵害しているとして今回の行動への非難を表明した。

3. ムスリム同胞団系当地最大野党タワースル

(1) タワースル党は、31日朝にテヘランで暗殺されたハニーヤ・ハマス政治局長を追悼した。

(2) ムフタール党首が発表した追悼文の中で、同党は、ハニーヤ氏の暗殺は、(イスラエルによる)子供たちの虐殺及び学校や病院の破壊といった蛮行及び侵略には限界がないことを世界のすべての自由を愛する人々及び活動家に対して伝えた、と述べた。また同氏の死は、指導者を次々と失いながらもハマスを筆頭とする抵抗勢力が、最後のパレスチナの土地が解放されるまで、ジハード及び闘争を続けるというメッセージでもありと付け加えた。

(3) 同党は、この卑劣な暗殺を最も厳しく強い言葉で非難すると表明し、すべてのイスラム諸国民に対し抵抗運動を支持し、奪われたパレスチナの地を解放するための強力な支援を呼び掛けた。

(4) 同党はまた、イスラムの大義及びアル・アクサの解放を支援するために、国内のすべての活動家に対し団結し、時間及び資金を捧げるよう呼びかけた。

【経済】

●当地通信状況に関する報告書の発表

(7月15日付、当地独立系メディア「アル・アフバル」)

1. モーリタニア通信規制機関が発表した最新の報告によると、前年と比較し2022年は固定電話及び携帯電話契約者数の18%に相当する110万人超が減少した。一方、同期間中にインターネット利用者数は6%増加した。電話契約者数は2021年の657万455人から540万5043人に減少した。この数値は2020年の587万1008人をも下回っている。

2. 同機関は、この契約者数の減少は主に、国民IDに紐付けた契約登録の義務化及びこれらが紐付けられていない契約の停止によるものとしている。この結果、116万5412人の契約者数が減少し、2021年には153%だった普及率が2022年には124%に低下した。なお、2023年の報告はまだ発表されていない。電話契約者数は、2018年は462万6461人、2019年は477万2658人、2020年は587万1008人と増加傾向だった。

3. 一方、インターネットサービスの契約者数は、2018年は221万4035人、2019年は252万3370人、2020年は289万4628人、2021年は328万5578人、そして2022年358万9497人と増加を続けている。その結果、インターネットの普及率は2021年の76%から2022年は80%に上昇した。過去の推移は、2018年は57%、2019年は63%、2020年は69%だった。

4. 携帯電話ネットワークのデータ使用量は、2018年の2,216万7496GBから2022年には1億4,898万3843GBに急増した。2019年は3,256万3390GB、2020年は4,519万937GB、2021年は8,870万6727GBだった。同報告書は、インターネット全体の利用が順調に増加を続け、2021年から2022年にかけて(データ使用料は、)68%の強い増加を記録したと強調している。このデータ使用料の統計は「Mattel」、「Mauritel」及び「Chinguitel」の3つの通信事業者に限られる。

【治安】

●モーリタニア治安情報(マリ軍によるマリ側国境地域の村への襲撃及びモーリタニア人殺害事件)

(7月22日付、当地独立系メディア「AL BAYAN」他)

1. Karfi村でのモーリタニア人殺害事件(7月23日付、「AL BAYAN」)

(1) 地元情報筋によれば、モーリタニア国境付近のマリのKarfi村で少なくとも3名のモーリタニア人の死亡が確認された。

(2) 情報筋は、モーリタニア・マリの国境におけるマリ軍の追跡作戦において、マリ軍がモーリタニア人男性及びその12歳の息子を殺害したこと、また彼らの近くにいたもう一人の人物が殺害されたことを確認した。

(3) さらに情報筋は、7月22日正午に発生した攻撃で負傷した可能性のある4人目との連絡が途絶えたと地域住民が報告していると付け加えた。

(4) 現在モーリタニア軍の中隊がこの地域に到着し、両国の国境に駐留している。

2. 上記1. を受けたモーリタニア政府の対応(7月30日付、当地独立系メディア「サハラ・メディア」)

(1) モーリタニア・マリ国境で3名のモーリタニア人が殺害された事件の後、ホード・エッシェルギ州バシクヌ県ラクホイバ村は、Karfi村から移住してきた多くの住民を受け入れている。

(2) 本事件に200世帯が巻き込まれ、モーリタニア政府は仮住居、食料品及び現金を提供し、家族とその荷物がラクホイバ村に運ばれるよう手配した。ホード・エッシェルギ州知事は、犠牲者の家族に哀悼の意を表した。

(3) 同州知事は、マリ領内を移動するパトロール部隊の中には地図だけを頼りにしている者もいると述べ、今回の事件が起きた地域はモーリタニアの国境外であると付け加えた。

(4) また同州知事は、モーリタニアは国土の一步たりとも譲らず、両国間の国境線は国際法及び国際慣習法によって決定されるとガズワニ大統領が常に強

調していると述べ、村や近隣の村の住民に対し、特にこの期間中は紛争地帯に近づかないよう呼びかけ、自らの意思で移動したすべての市民を、国が支援し、彼らを安定させるために寄り添うよう努めたと強調した。

(5) さらに同州知事はマリは現在、例外的な治安の乱れに見舞われているとして、注意及び警戒の必要性を強調した。また一部の市民によって流布され、不和及び不調和をもたらす「悪意ある噂」に対して警告を発し、「モーリタニアはすべての人のための国でありすべての人を受け入れる国である」ことを想起させた。